

重点目標	難関大学に挑戦する意欲を喚起し、志望達成のための支援をする。		P
現 状	年2回の進路面接週間を利用し、クラス全員と面談し、生徒の現状と課題を把握して支援を行っている。 長期休業中および放課後補習を実施している。		
具体的な目標	高い志を持ち、その目標を達成するために頑張れる生徒の育成。		
目標達成のための 方策	様々な進路関係の行事を通して、生徒に高い目標を持たせる。 外部講師を招聘し、学力の向上を図る。		
具体的な取組状況	「あをくも講座」による大学訪問や、美入野ゼミ・東大見学会を実施した。 2年生は春季休業に代ゼミから講師を、3年生は夏季休業に数学の講師を招いて講義を行う。		D
達成状況	学年当初より、難関大学を志望する生徒が増えてきた。 外部講師による講座は、3人でのべ20講座（英語6・数学14）実施した。		
自己評価	評価	根拠	C
	B	単純に数字的なものでの評価はしにくい。各学年部でいろいろな企画を計画し、よくやってくれていると思う。生徒の実態に合わせて工夫をしていかなければならないので、これでいいという判断は難しい。	
↑ 評価基準 ↓	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と 意見	評価	意見	C
	A	難関大学に挑戦する生徒は増加し、また、この三年間で志望状況は変化した。志望達成に向けた支援は、様々な進路行事を企画することで充実してきている。	
自己評価及び学校 関係者評価に基づ いた改善策	志望状況の変化だけでなく、生徒が第一志望校を受験・合格できたかを調べるなどして、志望達成のための支援のあり方考え、第一志望への合格をさらに強化する。		A